



熟練者（技能グランプリ銀賞受賞者）



未熟練者（大工作業経験3年の大学3年生）

写真2：かなな掛け作業の動作解析実験の様子

（2）良好な人材育成の推進事例

技能継承に当たっては、企業内において技能継承の方針が策定され、人材育成の重要性が職場に浸透し、実際に技能継承を推進するための取組が実施されていることが必要である。ここ

では、社員全員参加型で行う技能継承の取組や、多能工化などの将来を見据えた企業内における計画的な OJT、企業内の認定職業訓練校を活用した OFF-JT、技能検定の活用等の取組事例を紹介する。

コラム

社員全員参加型の人材育成の取組・・・小西化学工業（株）

和歌山市にある小西化学工業株式会社（従業員 122 名）は、1962 年に創業。元々は、地場産業である繊維業・染色業に関連し、合成染料などの中間体である化学材料の有機合成を得意としており、現在は、こうした技術を応用し外国企業から航空機用炭素繊維を作成する際の原料となる特殊樹脂の生産受託や、医療分野では人口透析膜の製造などの機能材料を幅広く手掛けている。

同社は積極的なスマートファクトリー化を目指しており、その取組の 1 つに、小西社長が自ら発案し、企業一体となって実行している職場改善活動である「キラリ！ KONISHI」がある。

これは、和歌山本社工場と福井工場の社員全員参加型での改善提案を募り、特に良い技能・技術などを提案した場合は、社長賞として表彰を行う報奨制度などが設けられた独自の職場改善活動であり、社会人としての自覚や技能・技術の継承、生産性向上のための PDCA 活動として実施しているものである。

また、よい提案や、技能・ノウハウなどは、ワンポイントレッスンシートに分かりやすくまとめ、作業手順書等に蓄積していくほか、会議室等の活動シートに掲示して、社員間でも「見える化」し、共有化が図られている。

同社の和歌山本社工場にある製造プラント設備は、手動による運転稼働が多く、熟練社員の高い技能・技術が必要とされる。部門ごとに行っている社員研修を通じて、熟練社員が蓄積した技能やコツなどを若手社員に継承している。

2013 年から稼働した福井工場では自動運転化した製造プラント設備を導入しているが、和歌山本社工場とは地理的に離れているため、若手社員に対する OJT 教育については、IoT 技術が採り入れられている。福井工場の社員が着用するヘルメットにはネットワークカメラが取り付けられており、遠隔地の和歌山本社工場からリアルタイム映像を見ながら技術指導を行うことが可能となるほか、両工場間でネットワーク接続したテレビ会議システムを活用し、定期的な社員研修を行うなど、情報システム技術を活用した人材育成の取組みも行われている。



写真1：社員全員参加型の職場改善活動の見える化



写真2：ワンポイントレッスンの風景